

続・続  
私的アンソロジー

しあわせの構図

IV コラム 飛耳長目／

著作・投稿・寄稿

黒沼  
貞志

続・続 私的アンソロジー 「しあわせの構図」

IV コラム 飛耳長目／著作・投稿・寄稿

黒沼 貞志

もくじ

- 一 コラム 飛耳長目
- 二 著作・投稿・寄稿

## コラム 飛耳長目

一

コラム「飛耳長目」は2011年3月11日の東日本大震災の「原発事故への対応」で始まり、冊子「続私的アンソロジー」には2017年3月までの300件を超える掲載から取捨選択を経て90件余り掲載した。その後の5年間のコラム数は130件余りになる。今回はそれらの中から取捨選択して90件余りを選定して掲載する。すべてのコラムはHPのコラム「飛耳長目」( <https://www.sik-solutions.org/column.html> ) にアクセス願いたい。

中国の春秋時代、齊の管仲（？～前645）、法家の祖（）が、遠くのことをよく聞き知ることのできる耳と、遠くのことをよく見る（こと）のできる目を持つことを「飛耳長目」といったようだ。見聞を広め、物事を鋭敏に観察することの大切さを教えている。

日本では幕末、情報の必要性を感じていた吉田松陰が松下村塾のモットーにし、塾生たちに見聞を広めることを勧めた。

現代ではインターネットが飛耳長目の場でありツールであり、松陰たちの時代と較べると時空を越えて世界の情報を収集できるようになった。

情報の海の中から有意の情報を見つけ、整理・体系化して活用することにより、時代の潮流を読み取り的確な判断に資することが求められている。



画像出典

<https://ja.wikipedia.org/wiki/吉田松陰>

著作・投稿・寄稿

二

これまで様々な分野に投稿などとして掲載された拙文から次のような内容を掲載する。

- 1 幕末の科学思想
- 2 文化・スポーツ活動の発展のために
- 3 雪が舞う東北の地への風信
- 4 やましんサロン投稿記事
- 5 庄内日報「私の一冊」投稿記事

6 山形市立図書館記念講座資料（令和4年

3月6日）…「クオリティオブライフの

羅針盤（自分史の視点から）」

7 山形市立図書館記念講座資料（令和5年

3月5日）…「写真短歌」への誘い」

8 マイタウンあさひ掲載記事（新聞屋さんの

ミニコミ紙）

## コラム 飛耳長目

▼2023年1月18日… 老いは個人差をどんどん広げていきます “に得心”

和田秀樹氏（高齢者専門の精神科医）の著書「老人入門」今さら聞けない必須知識20講」の第14講の中の論考です。

確かに、同じ70代、80代でも「なぜこんなにも違うのか」と周りの人に感ずることがしばしばあった。特に、70に入った頃から心身の衰えを実感していたので遊学期に入ったばかりの今、身につまされるところ。

私 の 対 策 Ⅱ

・寝起き時の30分の&日中のPC作業に疲れた時のストレッチ…書籍、ネット情報、TV情報などから何種類かのメニューを継続している。

・最近加わったのが喉仏の周りの「喉頭挙上筋群」の衰えを遅らせる効果が期待でき誤嚥性肺炎の予防策と紹介している玄侑宗久氏の著書で見つけた。

シャキア・トレーニング（布団に横になって首を挙げ、約1分自分の足の爪先を見続ける。最初は結構きつくて首に震えがくる。

ご参考…20講よりなるほどと思った講名を記す。

第1講 老いは本来、幸せな時間です／第4講 脳の萎縮と脳の機能低下は相関しない／第10講 免許は返納しなくていい／第13講 穏やかな老いを迎えるMHA病気という考え方／第14講 老いは同世代に障害者が増えてくるということ／第19講 「どんな年寄りになってやろうか」と考えていい年代

▼2022年12月17日：昨日（12月16日）の嬉しい出会い

当日の積雪が5cm程度だったこともあり雪かきをしなかったのが幸いしたのか夕暮れ時に玄関先に出てみたら写真のような嬉しい出会いがあった。

子供たち（？）の洒落たプレゼント（？）に連れ合いと二人して久しぶりにほっこりし頬が緩むひと時となった。

写真に一首詠草を添えて写真短歌に仕立てられたら…と思ったところ。



## ▼2022年12月11日：12月10日の地方紙のトップに 「防衛省「世論操作」構想」の記事

加えて次のようなサブキャッチ

- ・ 有利な情報発信、特定国への敵対心醸成
- ・ AI活用、SNS拡散

かつてこの国の敗戦につながった太平洋戦争で経験したのと同じようなプロセスの一端を垣間見るような行動に思える。

今の為政者の一部（防衛省）が進めているこの調査研究を上記大戦の史実に重ねてしまうのは当方の考えすぎだろうか？

記事の内容では・・・構想段階とはいえ2022年度予算の調査研究費を充て、「世論操作」の手段として調査研究を始めた由。

9月にインフルエンサーを担う委託企業公募の入札を実施、10月に世界展開するコンサル会社の日本法人に決めたという研究は23年度以降も3年間ほど続けるとある。

ここまで来ているのか、この先は見たくないと強く思った（この構想が現実になる頃には当方は生きていないだろう）が。

## ▼2022年12月1日：久々の地方紙の小コーナーの「姥捨 て」という記事

厚労省や財務省が介護1と2の保険外しに前向きな姿勢を見せ始めているとして深沢七郎の「楢山節考」を例にとり次のように記していて共感。

・・・老人は役立たずだからコミュニティから即時退場せよ、というメッセージを疑わない老母の順応性の高さが物悲しいが、他人事とは思えない。人は条件さえ整えば、悪政にだって順応してしまう生き物なのだから。・・・

遊行期の門（後期高齢者の仲間入り）をくぐったこともありまた身内が遠方にいるため最近情報収集を始めたばかりの身には他人事ではないテーマである。

「人生最後の日まで必要最低限のサポートを受けながら、つつましく暮らしたいだけ。しかし、それすら贅沢な願いになつてしまうのだろうか」と記す筆者が言うように少子化が加速し対策を見いだせないこの国は焼捨て山の時代に逆戻りするのかもしれない。

## ▼2022年11月24日：「庄内日報」私の一冊への投稿記事掲載となりました。

庄内日報にこのようなコーナーがあることを知友（短歌の先達）のリレー紹介で知り投稿する機会を得て投稿したところ11月22日の紙上に掲載される運びとなりました。

その依頼状には次のように記されているので紹介します。

「一冊の本を通して、人と出会い、読書が広がることを願って始まった「私の一冊」。2014年6月から地域新聞「庄内日報」に本の紹介コーナーを提供していただいております。「読書のまち鶴岡」をすすめる会から引き継いで、2022年4月より「チームまちじゅう図書館」が、連載を担当することになりました。」

文字数800という制限もあり何の本を選ぼうか悩んだ末に「一冊の本にまつわるエピソード」という切り口で藤原正彦氏著の「国家の品格」を選らんで次のような内容で投稿した次第です。

タイトル…「名こそ惜しけれ」の精神

取り上げる一冊は少し古いが2005年発行の「国家の品格」。著者は作家新田次郎と藤原ていの次男で数学者の藤原正彦氏。たまたま書店で「国家の品格」という書名が目に入り購入。氏の書籍との初めての出会いとなった。

私がUターンする前に30年間の企業勤務を経験しその間で海外駐在を経験しているからだろうか特にこの本の第6章『なぜ「情緒と形」が大事なのか』の中の「真の国際人には外国語は関係ない」大切なのは「国語、読書などによる総合力」と言い切る多言語に長けた著者の言葉が重く心に残っている。

この論述に反応する自分には次のような社会経験があるからだろうと思っている。一つは企業入社して間もない頃の会社の英会話教室で米国人教師に「日本の結婚式で女性が身に付ける「角隠し」と「綿帽子」の違いは？」と問われ、私を含め誰も答えることが出来なかったこと。二つ目は後年の海外駐在現場のパーティ席上で欧米の技術者から日本の歌舞伎や文楽、狂言などについて問われてその答えに窮したこと。



日本語ですらうまく語れないことを英語で出来ないのは明らか。これらの苦い経験を記憶に留めて今の私があると思っている。Uターンして20余年、今やGoogleの無料翻訳など便利な時代となり隔世の感(過ぎたる便利に潜む不便利もあるが・・・)。

本書の最後の章「国家の品格」の最後の項「世界を救うのは日本人」に記されている次の箇所に強く共感を覚えるのでその一端を紹介したい。

「駐日フランス大使を務めた詩人のポール・クロードルは、大東亜戦争の帰趨のはっきりした昭和十八年に、パリでこう言いました。「日本は貧しい。しかし高貴だ。世界でただ一つ、どうしても生き残って欲しい民族をあげるとしたら、それは日本人だ」

このような考えは司馬遼太郎の「名こそ惜しけれ」という精神に通底するのではと思うのは私の勝手だろうかと自問する今日この頃。



▼2022年9月25日:「Dr. コトー診療所」を再び再放送で見ている

16年ぶりの続編劇場版公開の予定(2022年12月16日)があるので再放送されていると思われる。ネット情報によると主な放送履歴は次のようになる。

第1期…2003年 全11話 / 第2期…2006年 全11話

プロデューサー、原作(漫画)、脚本、監督、演出、音楽、俳優らの「総合力」の成果なのだと改めて、つくづく思う。優れた脚本作家やコピーライターが排出されていないからか最近のTVドラマやコマーシャルの質の低下を感じるのは自分だけなのだろうか・・・時代の変化といえそれまでだが。

▼2022年9月20日:ノーベルバークの旗手ゴダール逝く

ゴダールがスイスの自宅で医師の手を借り死を選んだとの報に接した。かつて(学生時代)に映画館で「勝手にしやがれ」を見た記憶がある。報に接して次のように詠んだ。

死を選びヌーベルバーグの旗手逝けり

暗がりの記憶勝手にしやがれ」

映画といえど同じく学生時代に見たフランスのヌーベルバーグに影響を受け、アメリカン・ニューシネマの旗手の一人アーサー・ペン監督「俺たちに明日はない」に触れた学内の新聞に投稿し掲載された拙論者も思い出す。テーマは学内のサークル活動に触れた「文化・スポーツ活動の発展のため」であったがこの中で映画などの脚本・批評の論客石堂淑郎の言葉の引用の中で次のように紹介している。

拙HPのアーカイブスの「寄稿・投稿・著作から」転記

石堂淑郎「映画における幻想と死」（デザイン批評・

1968・2・NO・5）より

・・・・・・・・中略・・・・・・・・

つまり、ボニーとクライド（アーサー・ペン監督「俺たちに明日はない」の主人公達）は、絶望をその両肩におぶったまま譲らず遂に殺され、創価学会・民青はその絶望を宗教的・政治的幻想という偽りの希望に肩代わりさせるのだが、少なくとも前者は精神的な疎外を肉体によってうけとめることよってプロテストしているのに、後者は疎外からより大

いなる疎外へと移行しているだけなのである。キェルケゴール風にいえば絶望を絶望としてうけとめて死ぬのと、絶望を希望という名の絶望に肩代わりさせてニコニコするのとどちらがより絶望的であるのか、勿論、後者である。これをいま別の面から考えてみれば、学会なり民青なりの核である宗教的・政治的幻想は敵対者に対する憎悪をその唯一の栄養としていることがあげられる。つまり彼らのニコニコ顔は非同調者に対する憎悪の顔と表裏で一体であることを忘れてはならない。それは幻想という見えざる呪縛の力にとらえられている人間のつねである。

・・・・・・・・後略・・・・・・・・

▼2022年9月10日..「2人の瞳が捉えた被爆地 土門拳と江成さん」の見出し記事

酒田市美術館と土門拳記念館の共同企画展「2つのまなざし 江成常夫と土門拳ーヒロシマ・ナガサキ」の紹介を地方紙に見かけた。

土門拳記念館はこれまでも何度か訪れているが酒田市美術館への訪問の記憶はない。展示作品の状況とさかた文化財団名誉顧問に就任した江成氏（85歳）の写真も添えてあった。江成氏については当方にも縁がある。1995年神奈川報道写真連盟公募展（全国公募）で弊作品（とまり木）が大賞と

なりその時の審査委員長が江成氏で次のような講評をいた  
いた。



「スナップ写真は周りの身近な風景や題材であっても撮影者の視点次第でしっかりとした作品になりうる。その視点で日常に題材を求め た大賞の「とまり木」は駅前のにげない風景の中から社会の世相を切り撮っており、対象に向かう視点と作品作りの力量は評価できる」

写真集「花嫁のアメリカ」のほか氏の写真集を保有していたが次の詠草を詠んだ折の断捨離で手放してしまっている。

断捨離の成果の箱を古書店へこころ残りの帰路はたそがれ

(平成29年7月やましん歌壇大滝 保選・筆頭一席)

## ▼2022年8月30日：理想と現実のはざま

「核拡散防止条約（NPT）再検討会議が分裂」の報道に接して国際機関の機能不全を改めて思った。情報不足を顧みず  
に言えば次のようなポイントが原因かと。

・全会一致は原則としてもオルタナティブへの可能性を担保するのが原則では。

・国連でいえば第2次世界大戦の置き土産「常任理事国の拒否権」が時代の変化に対応できず各種決定の足枷となっている。

国内の卑近な話題で言えば直近の次の拙詠草（やましん歌壇掲載歌）にもあるように憲法改正が話題となっている。

ひたひたと足音聞こゆ改憲の数の揃うを報じるメディア

改憲を進めたい人たちの主な論点は「憲法が現実に合わせてなくなっている」らしいが憲法はあくまで理想、あるべき姿を示すもので現実との間に生じる齟齬は法律やその他の手段で対応するものではないかという考えに立ちたいも

のだ。権力を握ったものの常として保身のために憲法変えてきた海外の多くの事例を待つまでもない。

## ▼2022年8月15日：ドキュメント72時間「歴代（10年）ベスト10」を見る

「ドキュメント72時間」は2013年（平成25年）4月5日からNHK総合で放送されているドキュメンタリー番組です。当番組はほぼ毎回見てきたが今回は放送10年目の初めての企画を録画で見ている。最初が10位の「恐山」。

この番組「恐山」を見て半世紀以上前にもなる大学4年（1968年）の夏休みに保有する自転車（10段変則機能付）で無謀？にも「東北6県一周1,500km」を実施したことを思い出した。その途中に「恐山」に立ち寄り写真も撮った。

宿泊…国民宿舎、ユースホステル、寺、友人宅など。／コース…山形↓酒田↓秋田↓男鹿半島↓青森（↓下北半島恐山）↓盛岡（↓宮古）↓仙台↓福島（↓会津若松）↓米沢↓山形／一日の平均走行距離は約70km／各地の名勝なども堪能しながら約20日間の一人旅。

恐山の写真は霧囲気を出すためミニコピーフィルムに反転してポジフィルムを作り、3枚組に仕立てた。その後（平成22年）に短歌を嗜むようになって次のような詠草を添えて写真短歌の作品とした。

地の果てにひとり佇み眼閉づ自ずと湧き出づ彼岸の世界



## ▼2022年8月2日：為政者（政治家）の老化

安倍元首相の殺害に端を発し政治家の旧統一教会（以下「教会」と）との関係にメディアが騒がしい。殺害の動機の解明が報じられるようになり政治家たちと教会の関係、その根っここの部分に光が当てられようとしている。個人的感想が許されるなら偏に政治家の「栗田」が根っこにあると思う。因みに地方議会レベルの話になるが議員は当選した翌日から4年後の選挙が頭の中の重要度第1位と揶揄されている。

関係が取りざたされる政治家の発言に「逃げ腰」「居直り」の発言が際立つ。何が問題なのか分からないという2世(?)議員の発言には聞いた口が塞がらない。まして、警察組織を管理する国務大臣でもある国家公安委員会委員長が関係を認めたということが報じられて言葉を失ってしまふ。

これまでも何度か紹介しているが司馬遼太郎の著書やTV番組で紹介されている言葉【名こそ惜しけれ】に再び光をあてなければならぬのではという思いを強くする。

## ▼2022年7月23日：謝罪無き謝罪(地方紙の小コラム記事)に得心

最近の為政者の以下のような発言・暴言を例にして「謝罪無き謝罪(英語では non-apology apology, fake apology)」とし社会全体の倫理観の欠如と指摘していた。

家計の値上げ許容…日銀の黒田総裁/野党の話は、政府は何一つ聞かない…山際経済再生担当相/弱い子がいじめられる。強いやつはいじめられない。国もおなじだ…麻生副総裁

また、筆者の次の指摘は誰が考えても得心が得られると思ふ。

・「誤解を与えたのであれば申し訳ない」といった類の発言は誤解の「余地」がない発言にもかかわらず、自分に全ての責任はなく、誤解した方も悪いとどの言いぶりだ。

・謝罪は弱者がするもの。強者は謝らない。「謝罪無き謝罪」横行の背景には、こんな考え方も見え隠れする。

誠実さを失った為政者の言葉が、一般社会に影響を与えないことを願いたいと記事を締めていたが・・・流布される情報を見る限り世間は既に毒されているのではないだろうか？

## ▼2022年7月21日：「カーボンニュートラルやまがた県民運動」の新聞記事

7月17日の地方紙に「県、省エネ推進キャンペーン 家電買い換え CO2削減」という記事掲載があった。

ふと、思い出したのが「LCA(ライフサイクルアセスメント)」。かつて勤めた企業で仕事の関係でこの概念に合って多少は勉強した。馴染みのない方のために簡単に概説すると次のようになる。

LCA：ライフサイクルアセスメント (LCA: Life Cycle Assessment) とは、ある製品・サービスのライフサイクル全体（資源採取―原料生産―製品生産―流通―消費―廃棄・リサイクル）又はその特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法である。

かつて、いや今も日本には「もったいない」という品物に限らず自然からのいただき物まで大事に使う考えがある。一時、車の排気ガス（CO<sub>2</sub>）低減のため新車への乗り換えキャンペーンが叫ばれたことがある。その時には使いたれた車と新しい車の比較を燃費、CO<sub>2</sub>排出量だけの比較（新しい方が良いのは自明）だけではなくLCAの視点で比較する発想が必要ではと痛感した。

現在どこを向いてもSDGのやカーボンニュートラルへの取組みなどに関する情報で溢れている。これらを推進する場合は時流に流されずLCAという原点、根本を分かった上でお願いしたいと思うし、取上げるメディアにもその観点にも触れて欲しいと思う。

▼2022年7月15日：安倍元首相が狙撃され死亡したニュースには驚いた

メディアは国内、世界からの弔意を一斉に取上げている

がブーチンからもあったというニュースに聞いた口が塞がらなかったことを覚えていて。死者に鞭打つ人は嫌われるが公人とりわけ政治家の場合はどうなのだろう？多面的な評価が必須なはずにも拘わらず殆どのTV局ニュースは死を悼むシーンと事件の真相を追いかけるばかり。

少し落ち着けばメディアが「功罪」としてしっかり取上げるところを期待しているところに突然、「国葬」という閣議決定のニュース。その持つ意味を自分の中で整理がつかない中、総理のその理由の発言に？？？なのが実情。少なくとも野党の考え（正式な声明）が示されてしかるべきなのだが・・・Facebookの友達の投稿で最初に目にした声明文が「れいわ」らしいと知り驚いた。何れにしても国会での論議が待たれる。政党からはフリーハンドの立ち位置にあっても次のような印象を持つ。

政治家は「言葉」とよく言われるが実行されてこそであり、アベノミックス、美しき日本、三本の矢、一億総活・・・挙げたらきりが無くそれらの総括は目にしたことが無い。森友学園、桜の会など多くの疑惑・問題の黙殺、これで間違いないくうやむやになる。デフレ脱却はいづこ？

▼2022年7月4日：KDDIの大規模通信障害に見る「過ぎたる便利に潜む不便利」

ここ数日メディアが騒がしい。特に気になるのが社会インフラ、その中でもセーフティネット（救急医療、保健所機能・・・挙げたらきりが無い）への影響。

拙HPの先に紹介した「コラム『飛耳長目』」で紹介した内田樹氏の論考でも触れたように「危機管理の欠如は日本人の国民性？」らしい。便利なネット社会を享受するには特に社会インフラのシステム基盤をシングルではなく少なくとも二重化が求められると言えそう。

▼2022年7月2日：最近のNHKTV（&ETV）ドキュメンタリー番組が面白い

先（2月）にNHKETVドキュランド「メルケルが残したものの16年間の足跡」（1月14日初回放送）を紹介したが最近は次のような番組を録画で見ている。

- ①映像の世紀 バタフライエフェクト「ストーリーリンとブーチン」
- ②アナザーストーリーズ 運命の分岐点「発見！ナチス略奪絵画 執念のスクープの舞台裏」

③NHKETVドキュランド「権力と闘うあるロシアTV局の軌跡」

番組の切り口の差違がそれぞれの番組名に現れているように思える。ロシアのウクライナ侵攻と相まって自分の関心を呼び起こしたのかもしれないが何れも自分の世界の歴史に対する無知ぶりを痛感させてくれる。

▼2022年6月27日：玄侑宗久氏のエッセイ集『なりゆきを生きる』『つるの奥山つづら折れ』『こいつて』

図書館で目に留り（書名に惹かれ）借りて読んでいます。氏は臨済宗妙心寺派福聚寺第35世住職。

はじめて氏の著書に接しているが本著は東日本大震災の翌年の2012年4月から（\*）およそ7年半東京新聞（および中日新聞、北陸中日新聞）に「つるの奥山」としてほぼ月1回のペースで連載されている由。\*全く関係ないが拙HPのコラム「飛耳長目」は震災のあった2011年3月30日に「題・原発事故への対応」でスタートし現在も掲載中。

著書の「まえがきに代えて」の中で、「なりゆき」という言葉はいい加減で定見のない在り方を批判的に言う場合にも使われるが、本来は逐一変化するプロセスも踏まえた正確な現状のことだ。生きるのにこれほど大切なものはないはずだが、常に更新する負担があまりに大きいため、諦めて「なり

ゆき」という言葉じたいを貶めることにしたのだろう。と紹介されていくほど得心。

心に残った箇所を二つほど引用してみる。

♪一つ目…栗の花 (2014年7月) から

・ ・ ・ 禅の世界は、管見だが、喪失後の世界である。人は加齢と共にさまざまなものを失うが、禅の道場ではこれが若いうちから無理矢理奪われていく。情報、交友、便利な道具、などなど。そして失ったあとでも通用する新たな価値観に目覚めていくのである。梅雨の潤いのなかで、栗の花がしずかに咲いている。仮設住宅の暮らしが長びくなかで、県内ではそれに気づく人も多いことだろう。喪失したからこそ、やがて人は「よく見る」ようになる。まもなく「夏草や」の季節だが、喪失後の世界を「夢の跡」と見れば、ぼうぼうに伸びた夏草も狂おしいまでの命の躍動に見えるはずである。

♪二つ目…喉仏の効用 (2017年7月) から

・ ・ ・ 肺炎の菌は健康な人でも口の中に常在している。だからほとんどどの肺炎の原因は、自分の口中の菌を食べ物と共に誤嚥し、それが気管から肺に入ってしまうことだ。なぜそんなことが起きるのかといえば、喉仏の周りの「喉頭挙上筋群」が衰え、筋肉が全体的に下がってしまったため、気管の蓋が閉まりにくくなるからだという。・ ・ ・

そこで、氏は喉仏の鍛え方<sup>①</sup>を紹介している。

①シヤキア・トレーニング ②嚥下おでこ体操 ③顎持ち上げ体操

興味ある方は調べてみては如何でしょうか？  
かつて(4年前)持病について詠んだ短歌を師匠阿部京子先生(3年前に他界)から「やましん歌壇」に掲載していた。

一病とつき合いてはや半世紀

遊行の門への錫杖とせむ

この3月、遊行の門を通過したのでこれからの錫杖は何になるのだろうかという思いに至っている。

弊主治医からは「持病(機能性ディスペプシア…昔で言えば慢性胃炎)で死に至ることはまずない。あるとすれば肺炎でしょう(それも誤嚥による)」と聞いていたことからこの章「喉仏の効用から」が気になった次第。

▼2022年4月2日：中井貴一が言う「自分は『じゃない』方へ行く」の意味するところ

中井貴一が甲斐よしひろと出演した番組(Eテレ「SW ITCハイスタビュー達人達」)を録画で見た。3月27日の放映だが心に残った中井の言葉とその意味するところへの感慨を記してみる。

♪「自分は『じゃない』方へ行く」…

中井が「正統派俳優」と呼ばれることへの本音を甲斐に打ち明けていた。



成蹊大の学生だった1981年に映画「連合艦隊」でデビューし俳優人生40年が過ぎた中井。しばしば人に中井が「正統派」の俳優と言われることに対して自分では「正統派ではない」と思っている」と言い、世の中の流れや流行の方へは行かず「自分は『じゃない』方へ行く」と話していたのが印象的。

因みにNHKの人気番組「サラメシ」のナレーションはハイテンションの話し方をしているが、これは

「（普通のように話さず）ずらしてやっている。基本にあるものまで削ってしまったら、単なるだらしないものになる」。あくまでも「正統」という基本をベースに、そこから派生した「ずらし」であるということを強調していた。

そして、俳優としての究極のスタイル「（セリフを）棒読みでも感情が通じるのが終着点」と述べていたのが印象的で、「いろいろなことができるけれど、やらない、使わないになつてみたい」と話していた。

♪着崩しについての中井の発言から（妙に得心した）  
が・・・結構難しいと思う）...

「着崩し」は楽にする方法なんですけど、きちっとした着方を知ってるから着崩しになる。単に楽にするだけならだしなくなるっていうのが自分の中にあって。きちっと着る方法を自分の中で定義として持とうというのは持っているんです。

世の中の流れに乗っている人たちに安心感を覚えるんですけど、僕はそれが昔から好きじゃなくて、「じゃない」方にいる。それがサラメシのナレーションとか、結構ずらして。最初にもらった原稿よりもずらして。残さなきゃいけないもの、ここを削ったらだらしなくなるみたいなことは避けよう。

参考までに10年前の本HPのコラムで中井のTBSの「サワコの朝」の番組で中井が語ったことに触れているので参考までに次に記す。

2021年6月30日 TBSのTV番組「サワコの朝」で思ったこと

最近土曜の朝のこの時間帯にこの番組を見ることが多い。土曜の朝の一仕事を終えたばかりの頭にちょうど良いのかも知れない。この日のゲストは俳優の中井貴一だった。有名な

父を持った苦勞などよく耳にする話はさておき、次のような話が残った。

＊俳優（例えば男優）の真骨頂は【助演男優賞】

＊主役は助演の人から「主役」にしてもらうもの

＊主役が高いギャラを貰うのは主役だからではない。関係者（スタッフ、助演者、照明・・・）が持ちよく仕事が出るように（例えば健康管理にまで）気配りするのが主役の役目であるためにギャラが高い。

＊「最近仕事で頑張っていますね」というサワコ女史の問いに対する彼の答え・・・3・11以降に自分に何ができるかと考えた時の「答え」として、「自分が生業で一所懸命働きその結果としての税金をたくさん納めそれが廻るようにすることも自分のできることだ」

### ▼2022年3月21日：地方紙の小さな記事「福島原発処理水使いヒラメ、アワビ飼育」に思うこと

昨日の地方紙に見つけた小さな記事が気になった（東電が9月頃から試験とのサブ見出し）。地元から「専門的な言葉や数字より、魚を飼って影響がないことを実証して欲しい」という意見があり「福島沖で取れて飼育しやすい魚と貝を選んだ」とあるがこの意見とは東電のプロバガンダと想像がおよぶのは仕方がないだろうと思う。

何よりもトリチウムなどの影響が魚介類に現れるのに一体どの程度の時間を要するか見通しが立たないだろうと予想されるが東電がそのような観点を気にしているとは思えない。間近だと思う処理水の海洋放出までにその結果出ることは無いのは自明（百も承知）であることからプロバガンダと言われる所以と思える。事象を単に書くだけがメディアの役目ではないのも自明。その事柄の意味することにも一言触れるべきではないかと改めて思った。

### ▼2022年3月11日：報告 山形市立図書館企画講座『クオリティオプライフの羅針盤（自分史の視点から）』

図書館の計らいで2021市民の出版物展を記念した企画講座の依頼を受け久し振りに人前で1時間半話す機会となった。

・日程：令和4年3月6日（日）、1時間半の講座  
・テーマ：クオリティオプライフの羅針盤（自分史の視点から）

先のコラムで山形市立図書館「2021市民の出版物展」のご案内をしたが、今回はその展示を記念して企画された「講座」。当方の拙い経験を交えて話をする事になった。生憎の悪天候（雪）だったがお陰さまでほぼ募集定員の参加者があり主催側の開催主旨の内容が提供できたのではないかと思っている。“講座の位置づけに代えて”で紹介した

「啐啄同時」にあるようにこの機会を活かすかどうかは参加者次第だろうと思う。  
講座のために準備した資料…

♪ 配布資料…

・説明資料…記念講座PP資料

・補足資料…DVD「私的アンソロジー」のカバーシート／同「プロローグ」／同「メニュー&マップ」／倉本聰の「履歴書」

♪ 机上紹介資料…

DVD「私的アンソロジー」／冊子「統私的アンソロジー」しあわせの構図<sup>①</sup>／山形げんきであったかづくり…冊子&掲載URL／やまがた食の甲子園<sup>②</sup>10年史…冊子&掲載URL／地域力共創推進コンソーシアム「活動の15年の軌跡」…冊子&掲載URL／東日本大震災 山形の支援活動10年の歩み

▼2022年2月7日：「メルケルが残したもの」16年間の足跡（1月14日初回放送）で印象に残ったこと

掲題番組（ドキュランド…NHK-Eテレ）を録画で見た。  
ドキュメンタリー番組として興味深く見ることが出来て中々も次の二つの言葉が強く印象に残った。

・「緊急時に人に優しくしたことで謝らなければならないのなら、ここは私の国ではありません」

これは2015年のシリア難民の受け入れを決断したことに対し通過国ハンガリーはもとより自国ドイツからも反対や批判の声があった時にメルケルが述べた言葉と紹介されていた。背景にはナチスドイツの反省や自国の憲法の規定に基づいていると説明されていたが、自身のかつての苦い経験も背景にあったようだ。

・「すべてのことには、時がある」

クリスチャン（プロテスタント）でもあるメルケルが退任する際の言葉として紹介されていた。クリスチャンではないので調べてみたら旧約聖書「コヘレトの言葉」の冒頭の2行目から引用したと思われる。世の中の諸事や自身のありよう（来し方、行く末）を憶う時、なかなか含蓄のある言葉と思う。

何事においても最もふさわしい時期があり  
この世の中のすべてのことには時がある。  
生まれる時があれば、死ぬ時がある。  
植える時があれば、植えたものを引き抜く時がある。

く 中略 く

引き裂く時があれば、縫い合わせる時がある。

沈黙を保つ時があれば、口に出して言う時がある。

愛する時があれば、憎む時がある。

戦う時があれば、平和の時がある。

## ▼2022年2月1日：雪国の車道の除雪 間口除雪で再び思 つら

1月29日の地方紙のコラムに「道路除雪を考える 時代  
に合わせ負担を軽く」という論考が載っていた。

かつて、当方のHPのコラムやコミュニティFM放送で番  
組を持っていた頃に間口除雪を取上げたことがある（「公  
助」の先進地の状況@ 村山市「雪の間口除雪」を考える」で  
思うこと(2015.02.20)。

戸建てに住むようになって約13年、間もなく後期高齢者  
の仲間入りの年齢になると車道の除雪で除雪車が車道の間口  
部分に残していった固く重たい残雪の処理が身体的にきつく  
なってきた。私が住む山形市は車道の除雪は「公助」、間口  
にあたる車道に残された雪の除雪は「自助」とされていると  
理解でき、その処理業者が市のHPに紹介されている。

この車道上の間口除雪の課題は公助の限界もあり仕方がな  
いように思えるが、せめて除雪車の除雪技術の改善指導は公  
助の業務として貰いたいとおもう今日この頃です。7年前に  
上記の弊コラムで記した当時の村山市の事例を参考に記した  
部分を再掲載したい。

### 【課題解決の3本柱（核となる資源）】

- ① ハード（インフラ・設備・システム）
  - ② ソフト（ハードの運用・活用の要領・制度&しくみ）
  - ③ ひと（利用者…消費者&ハード・ソフトの運用者）
- 特に大事なものはこれら柱の①②や財源が不足する時に、その  
代替として期待がかけられるのは、**△足りないところを「ひ  
と」の力で補うという発想。**  
例えば

- ・委託業者の除雪技術の研修（定期）などの実施
  - ・間口を避ける除雪要領の検討、標準化とその徹底
- 今回の村山市の先進事例紹介におけるポイント（下記）は上  
記の②ソフトと③ひとの力で補うということを指摘している。
- ・「日中」強化へ 平準化図り、費用を抑える↓集中実施から  
分散実施
  - ・県道は難しい 「特別実施は難しい」↓県、隣接市町村と  
の連携
  - ・委託業者、市、市民 「三位一体の対応」が必要↓市と委託

業者による勉強会、市民から冬季未使用空き地の提供（雪捨て場）」

## ▼2022年1月10日：山形新聞取材記事 「山形市バリアフリーガイドマップの【多言語化】」

山形市福祉のまちづくり活動委員会活動の進化形（？）でしようか「山形市バリアフリーガイドマップの【多言語化】」が山形新聞に取上げられました。先の掲載案内した当委員会の今年度の掲題事業が山形新聞の記者の目に止まり、昨年末に取材を受け1月9日付けの山形新聞で添付のように記事掲載の運びとなりました。

その記事に加えて当委員会のその他の活動（約20年）に関心をお持ちの方は運営サイトにアクセス願います。

URL : <https://www.yamagatashi-fukushihinomachi.org/>



## ▼2021年11月12日：お寺の掲示板（江田智昭著・新潮社）を読んでみた。

新聞の紹介記事にあった（紹介されたのは発刊間もない続編「お寺の掲示板 諸法無我」であったが利用する市立図書館にはなかった）2019年に出版されたこの本を図書館で借りることになった。たまに訪れる寺社の前に掲示板があることは承知していたので興味をもった次第。著者は2018年に「お寺の掲示板大賞」を創設しているらしい。その時の第1回大賞は「おまえも死ぬぞ 釈尊」でこの冊子の中で紹介されている。

この本を読んで掲示板も捨てたもんじゃないと再認識したところですが、加えて「終活すること あなたの成仏とは無関係です」という掲示板を取上げその解説で触れていた思想家内田樹氏の著書「ひとりでは生きられないのも芸のうち」を知り、早速図書館に借り出しの申込みしたことも触れておきたい。

以下に、なるほどと思った「言葉」を幾つかランダムに紹介しますので関心を持たれた方は手に取って見てください。

・ばれているぜ・・・冊子の表紙になっています

・人生が行き詰るのではない 自分の思いが行き詰まるのだ

・辛十一―辛

・お墓参りはご先祖様とのオフ会

・言っていることではなく、やっていることがその人の正体  
久田恵

・死は、いつか来るものではなく、いつでも来るものなの。  
樹木希林

▼2021年9月30日：山形新聞取材記事 「15年の地域活動 一冊に『山形・共創コンソーシアム』」

当方が主宰する地域力共創推進コンソーシアムの冊子発行についてはこれまでも記していますが、この度、山形新聞社の取材を受けて記事掲載となったので紹介します。

▼2021年9月2日：国立国会図書館のデジタルコンテンツ収集について

当コラムで弊冊子「続 私的アンソロジー」しあわせの構図」の発刊に関して次のように紹介してきた。

・2017・11・25…冊子発行／2018・2・25…同デジタルブック（電子ブック）の公開／2018・7・7…同冊子の公的機関への寄贈（&納本）

また、当方が主宰する地域力共創推進コンソーシアムの「15年の活動の軌跡」の発行にあたりコンソーシアムの事情やより多くの方々が届けるためパソコンやスマホ端末でこの冊子を読んだり印刷することが可能な「電子ブック」とし



て5月末に発刊し7月にWeb公開した(2021.7.25付け当コラム参照)。

その折に公開され巷に溢れるデジタルコンテンツの収集の実情が気になり国立国会図書館へ問合せたところ「インターネット資料収集保存事業」があることを知るに至った。

早速HPにアクセスして上記弊冊子を申請したところ収集対象であると確認したのでその作業に入る旨の返事を貰うこととなった。引き続きこれまで関わってきた次のようなアクティビティのデジタルコンテンツについてもその申請を検討してみたい。

山形市福祉のまちづくり活動委員会／おいしい山形の食と文化を考える会

▼2021年8月23日：再び内田樹の論考(地方紙掲載) ..  
「無意味耐性」高い人たち

この論考で「無意味耐性」という表現、言葉を初めて知った。氏は「意味のない言葉を口にしても気にならない」人のことを「無意味耐性の高い人」と規定して面白い論考になっている。主な指摘を紹介する。

・先の(8月6日)広島での平和祈念式典で、菅首相がスピーチの一部を読み違えたことが報道された。「原爆」を「原登」、「広島」を「ひろまし」と読むなど7カ所。更に問題は核廃絶に向けた日本の立場を示す約120字を読み飛ばしたことである。そこには「わが国は、核兵器の非人道性をどの国よりもよく理解する唯一の戦争被爆国」「『核兵器の無い世界』の実現に向けた努力を着実に積み重ねていくことが重要」などの文言が含まれていた。

・原稿が糊でくっついてはがれず、1枚飛ばしてしまっただけで、「完全に事務方のミス」という言い訳。・・・そこから知れるのは、首相がこのスピーチの草稿に事前に目を通さずに式典に臨んだらしいということである

・そのこと以上に私が当惑したのは、首相が意味をなさない文を平然と読み続けたということである。ふつうは起きないことだが文法的にかたちをなさないセンテンスを読むと、私たちは「気持ちが悪い」と感じる。しかし、首相はそこで立ち止まることをせず、意味をなさない文を平然と読み続けた。これはかなり深刻な問題だと私は思う。というのは、この事実から私たちは首相が「意味をなさない言葉を人前で堂々と話しても気にならない人だ」ということを知ることができるからである。

・「意味のない言葉を口にしても気にならない」人のことを私は「無意味耐性の高い人」というふうに呼んでいる。無意味な言葉を朗々と読み上げることができ、無意味な仕事に必死に汗をかくことができる人たち、それが「無意味耐性の高い人」である。これは現代日本ではある種の「社会的能力」として高く評価されている。

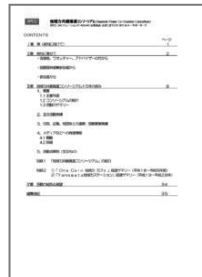
・上意下達組織において最も重んじられるのは「イエスマンシipp」であるが、これを考査するための最も簡単な方法は無意味なタスクを課すことである。・・・組織が上意下達的になればなるほど、「ブルシット・ジョブ（まったく無意味な仕事）」が増えるのはそのせいである。今、日本人は「無意味な言葉と無意味な仕事」という「おろし金」で日々すり減らされている。

## ▼2021年7月22日 地域力共創推進コンソーシアム 令和2年度事業「15年の活動の軌跡」発行

当方が主宰を務めるコンソーシアムの令和2年度の事業企画は・・・これまでのコアな参加者や話題提供者の協力をいただいで「＼コンソ15年の活動の結果（軌跡）＼を制作する年」・・・としておりました。当該事業はコロナ禍が進む中関係各位の協力を得ながら進め、年度を跨いでしまいました。がようやく発行の運びとなり当初の予定のとおりデジ

タルブック（DB）による冊子として当HP内の「Activity」に掲載して公開いたしました。

なお、DBの中に記しましたURLで一部該当情報が展開され無い箇所がありますので正誤表として整理しております。お手数ですが御了承のうえご覧いただけますと幸いです。また、DBにはPDF機能を付与していますので必要箇所のプリントも可能ですのでご活用ください。



## ▼2021年3月27日：再び数値の母数について「人口十万人当たり」の感染確認者数

山形県にも緊急事態宣言がなされそのニュースで人口十万人当たりの感染確認者数が宮城県、沖縄県に続いて全国第3位と報じられた。「人口十万人当たり」の数値は久々の表現。



以前にもメディアで日々報じられる感染確認者数にこの「人口十万人当たり」の感染確認者数を併記すべきではと記したことがある（時折その数値を見ることがあったが・・・）。単に都道府県の感染確認者数の増減に一喜一憂することなく冷静にこの数値の変移に注目することも大切なのではと思っているが殆どのメディアは単純に日々の感染確認者数の増減が殆どでありそれで十分な情報とは思えない。例えば、山形県や山形市の昨年3月からの「人口十万人当たり」の感染確認者数の推移を知りたいと思いWeb検索してみたがフィットするデータは見つからず、漸くそれに近いデータに辿りつくことができた。

★今年に入ってからの感染確認者数の推移…

★【都道府県別】人口あたりの新型コロナウイルス感染者数の推移（ただし、データは「日間の新規感染者数（人口100万人あたり）2021/03/27現在）…

更に、欲を言えば日々の感染確認者数はその時のPCR検査数も付記があればと思う。つまり、常時、検査陽性率も知ることができれば感染確認者数の変化の傾向を知る指標にもなると思われる。高齢者は今後も（あと1年？）厳しい状況が続くと思ひ慎ましく生きるのみ・・・だろうか？

▼2021年3月24日：他山の石、そして、空をそらと理解していた歌舞伎役者

「他山の石」はしばしば使われる言葉。四書五経のひとつ「詩経」の記述に基づく故事で、「他人のつまらぬ言行、誤りや失敗なども自分を磨く助けになる」という意味で使われる。

2019年7月の参院選広島選挙区をめぐる、公職選挙法違反の罪に問われた元法相で衆院議員河井克行被告の裁判での発言に対し、自民党の二階幹事長がは23日午前、「議論の余地のないこと。党としても他山の石としてしっかりと対応していかなくはならない」と述べた会見（ぶら下がり？）をこの日のTVニュースで見た。思わず苦笑してしまった。他山ではないだろう！自分の山（党）のことだろう！と。

先のコラムで「日本の政治家たちの言葉はあまりに空疎だ」という新聞記事を紹介したばかりでまたこの失言？に出くわした。いや、失言ではなくて幹事長の資質なのだろう。この人が党の幹事長でいられるその辺りにこの党の問題（自浄作用が働かない）があるのだろう。まさに老害の典型とも言えるのでは・・・。

この場面をみていて不意に次の記憶が甦ってきた。

般若心経の中に「色即是空 空即是色」という件（くだり）があるのは周知の通り。かつて（2013年2月27日）、十二代目市川團十郎が他界した際、息子の市川海老蔵が「團十郎が般若心経から『色は空空は色との時なき世へ』という辞世の句を残した」と紹介するTV映像を見たが、その場面で海老蔵がその辞世の句を紹介する時に「空（くう）」を「そら」と読んでいた映像をみて絶句したこと

を思い出した。  
当方も詳しくはないが写経などを経験する機会があったので多少の知識があった。さすがに海老蔵のこのレベルを知って以来、海老蔵が出てくる歌舞伎などの映像は素直な目で見れなくなりました。上記2件の例に共通しているのは・「言葉の重み」への理解とそれ語る際の自覚と言えるのではと思った。

### ▼2021年3月21日：人を動かす言葉 地方紙の小コーナーから

地方紙の小コーナーに久しぶりに心に留めたい記事を見つけたのでピックアップする。野球の故野村監督の事例を元西武監督の渡辺久信（現西武GM）の言葉を触れている。

・・・プロ野球選手なのでカウント別の投手の心理、打者心理など有る程度理解していたが、「あらためて言葉で説明されると『ああ、この人すごいな』って素直に思え」た、「野

村さんはしつかりと言葉で納得させてくれる監督でした」・・・。

やはり、大事なのは言葉の力なのである。

・・・「政治家に一番必要なのは言葉による説得力」だと『ローマ人の物語』で有名な作家塩野七生も語っている。戦没者を前にして残された者たちがどう生きるべきなのか、死の意味を考え、「できれば喜びと共に苦勞したい」、「その喜びに理由を与えるのが指導者」の言葉だ・・・という。

日本の政治家たちの言葉はあまりに空疎だ。

野村語録に「漫然と打席に入るな。『どうするか』を考えないヤツに『どうなるか』は見えないんだ」があるけれど、未来を見すえ、しかと考える能力を持つということだろう。

「それは、無理なのかもしれない」と改めて思った。

### ▼2021年3月13日：東北忌十年

春先の日射しに誘われて近郊低山富神山に足慣らし。

この時節に登るのは初めてだがさすがに駐車場までの車道の法面は残雪が山のように。登山道入口付近は雪が残り軽装では無理かなと思っただがその先は残雪も無く日差しは暖かくまずまず。ただ残雪の上を渡ってくる風は冷たく不慮なく春まだ先と感じられ、期待した春の芽吹きや花たちはまだまだまだという印象。

山頂には6、7人程度の先客がおり連れ合いと私が到着した頃にちょうど震災の時間の午後2時46分頃。東方向の先にある震災地に想いを馳せて黙禱を捧げた。道すがら頭の中で短歌（即詠）を練りながらの下山となった。

東北忌十年の日の山頂の二時四十六分黙禱の時刻とき

## ▼2021年1月18日：県知事選、県議補選で思うこと

投票日は24日。地方の首長や議員が職務を続けるのは3期で十分と思う。職務をビジネスでのプロジェクトと考えれば「PDCAサイクル」に似ている。1期目4年はP（計画）期、2期目の4年はD（実行）期、3期目の4年はC（評価・検証）期、そしてA（改善）は次の知事や議員に託す。今回の知事選の対立候補は「12年やって出来ないことはこれからの4年で出来るはずはない。だから私がやります」と語っていた。上記の考えに似ているとも言える。

県議補選の候補者の一人の公約に初めて目にする項目があり、これまでの弊持論を代弁する内容で面白いと思ったので紹介する。その他は弊持論（これまでのコラムでも4度取上げている。2019年10月19日付け掲載「大石田町議選定数割れ」を）参照ください。

・少なくとも地方議員は生業にすべきではない。

・そのためには4年の活動を終えたら前の職業に戻るしくみが必要（極端な例えで言えば現裁判制度のような発想が参考）

今回の県議補選の候補者（会社役員）の一人のユニークな公約&コメントで、当地で初めて目にする記述に出会った。

「2年限り 責任を持って目指せボランティア議員」／「私は商人 職業議員では有りません」

## ▼2021年1月7日：五木寛之の論考（大晦日の地方紙に掲載）を読む

大晦日の地方紙に紙面の半分弱のスペースを割いて首件論考が掲載されていた。見出しは・・・成長は限界「下山の時

代(＊)」、「ゆっくり成熟の喜び感じる」。＊：氏の著書

「下山の思想」が詳しい。

氏の「成長は限界」という表現に私の次のアクティビティを思い起こした。それは主宰する「One Coin 地域力カフェ」の今から11年前開催のスペシャルバージョン「やまがた地域力共創【論・楽・会】」の【論】での車座会議。テーマは『成長戦略の呪縛からフリーになるために・・・』「ロカールスタンダード (L S) 」の可能性を語る』

「成長戦略の限界」について参加者を交え熱く語り合い次のように「まとめ」た。

・・・最近見聞きする次のような小さな「試み」の積み重ねが「ロカールスタンダード (L S) 」下のパラダイム(枠組

み)の広がりにより効果が有るのでは・・・。

非効率の再評価／減速生活者(ダウンシフターズ)／幸せの尺度(価値観の変容)／各種シェアリングの取組み(ワーク・ルーム・カー・・・)／地産地消・在来食物の発掘／ダウンサイジング／新しい公共／行政の試み(秋田スベック・・・狭義のL Sの例?)

## ▼2020年8月21日：山形にも第3波が・・・

第3波で山形の感染確認者も桁違いの数値になってきた(今年の2月に当方が想定した状況に)。

県職員まで感染確認者が発生して(症状が出ているのに勤務していたらしくその認識の甘さで)たしかTVニュースで担当部局が謝罪?会見するシーンがあったはず。

ワクチンと治療薬が安全を担保されて行き渡り季節性インフルエンザと同じ様にならない限り終息はしないとベシミストは思うのだが・・・。英国でワクチンの投与が始まる報道を見聞きする。が、既定の安全性確認のステップを踏まずにトライして結果が「吉」とであれば良いが・・・最低あと1年は辛抱する必要があるのではと思っている。

日本の為政者の経済回復のための「G o t o」のトライ&エラー?は仕方がないと思うが、現状のように二兎を追うのは明らかに間違っていると思う。どうしても「G o t o」をとというならPCR検査(国の負担\*)で陰性確認できた者が参加OKになる様なスキームを何故考えないのか不思議。

＊：キャンセル料に使う税金で賄えるか検討する気力は持ち合わせていないが・・・。

## ▼2020年8月21日：任命権の意味を考えてみた

いま、メディアを賑わす日本学術会議の任命が話題になっているが日頃関心が向いていない領域のためかTV報道ではなかなか理解が及ばないため少し調べてみたところ次のように例を含めて並べてみると分かり易いと思った。

1. 日本学術会議…日本学術会議は、内閣総理大臣の管轄で国費で運営されており憲法23条の「学問の自由」によって保障された「政府の影響を受けない独立した組織」とある。
2. 日本学術会議会員の任命…会員の任命権者は総理大臣ですが、これはあくまでも形式的なもので、総理大臣は会議が推薦した会員候補105人を黙って承認することしかできないという説明がなされていてそれが「形式的な任命」の内容と思える。
3. 「形式的な任命権」の分かりやすい例…総理大臣の任命の手順…
  - ①総理大臣の選出は初めに自民党内で総裁選が行なわれて総裁に選ばれる（自民党の代表）
  - ②国会で首班指名選挙が行なわれ最近では自民党の総裁が選出されている（まだ「国会の代表」）
  - ③憲法第9条に基づき、任命権を持つ天皇より総理大臣を任命されて初めて日本の総理大臣となる。↓これも「形式的な任命権」であり天皇は「NO」と言うことはできない。どんなに気に入らない相手でも、首班指名選挙によって選出された人物は任命するしかない。

4. 今回、菅首相がやったことの意味…過去の例で言えば、前回の首班指名選挙によって選出された安倍晋三に対して、天皇が「安倍晋三は日本にとって百害あって一利なし」と仮にも判断して総理大臣の任命を拒否するということと同義ではないのかという考えに至る。

## ▼2020年8月21日：電気メーター取替

本日AMに電気メーター取替のお知らせ（添付）を持参の工事業者の訪問を受けた。東北電力ネットワーク

ク(株)から発注された工事会社で希望の工事日を聞くための訪問だったようだ。

東北電力ネットワーク(株)って何？と尋ねたら東北電力(株)から変わったとしか説明されず、東北電力ネットワーク(株)って何？という疑問もあり後ほどこちらから連絡するとしてお帰りたいだいた。

その後Web検索したところ2020-4-1から東北電力の一般送電部門を切り離して分社化し東北電力ネットワーク(株)として業務開始したことが分かった。

これまでその情報を見聞きした記憶がなかったので架電で問合せして折り返しの返事で東北電力↓東北電力ネットワーク↓委託工事会社の流れと理解できた。

そもそも「東北電力の一般送電部門の切り離し」の広報・告知がどのようにされていたか尋ねたところ添付写真(R2

年1月分の電気ご使用量のお知らせの「裏」で知らせているだけと東北電力ネットワーク(株)山形電力センターの総務の女性には事前の広報不足を頻りに恐縮しつつ上層部へ報告しますという回答だった。

何れにしても親方日の丸企業的仕事の流れは変わらないなぐとの印象を持った。資料をゆっくり読めば電気関係法令「計量法で一定期間での交換」が必要(水道メータなどと同様)でありその一環の工事と理解が出来た。委託工事会社の訪問者にはしっかりした説明と受け答えをしてもらえたらとも思うのだが・・・お陰で電力会社の置かれた背景や業務のやり様(進め方)を改めて考えるきっかけになった。

その後27日のAMに取替工事が終わった。今回からスマート検針機能が付くことになり従来の人による検針業務が無くなるとのこと。また一つ「仕事の種」が消えるということになるようだ。

技術革新で便利になるのは良いこととは思いますが・・・5月19日の投稿「新しい生活様式は新しいのだろうか?」の中で「過ぎたる便利は不便利を生む」と記したことを思い出す。

AI時代と喧伝されビジネスチャンスと競い合う昨今だが生きるための「仕事」の将来像に目を向けず徒にのめり込む姿を心配するのは余計な(年寄りの)お世話と言われそう・・・しかし、これからの若い人たちの「行く末」に関わることだということをお忘れしないで欲しいと思うがこれもまた余計なお世話かもしれない。

## ▼2020年8月16日: 拘って 敗戦“記念日”(8月15日)

8月15日の地方紙の一面に「終戦75年・・・」という表現。ここ何年と「敗戦」という言い方のメディアは皆無なのではないだろうか? 8年前のこの当コラムでも「敗戦記念日(敗戦忌または終戦記念日)」というタイトルで取上げたことがある。

今回は思うところを次のように詠んだ(即詠)。

言い換えて七十五年敗戦は終戦となり記憶薄れゆく

また、夜9時からのNHKスペシャルは「失われた戦後補償」を見た。重たい内容のドキュメントで主に民間人の補償を取上げていた。NHKのドキュメントは良い作品を手掛けることが多いと思つた。